

今月の
テーマ

「マイカー購入」 残価設定型クレジットを考える

秋田に暮らす私たちにとってのマイカーは、首都圏と比して脆弱な交通インフラ、相次ぐ鉄道・バス路線の廃止も相まって、正に足そのものと言える。通勤、買い物、レジャー、はたまた彼女とのデートなどなど、今や一家に1台どころか1人に1台になってしまった。

家計に占めるマイカーの維持管理コストは、車両本体、車検・点検、税金、燃料・オイル交換代、タイヤ・ワイパーなどの消耗品代、加えて任意保険料などなど、その維持管理費用は相当な額に上り、計算するのが怖い位だ。とりわけ車両本体価格は、安全装置や装備品の充実もあり高額化の一途だ。

それだけに、その購入方法も現金一括の他、リース、マイカーローン、そして近年は残価設定型クレジット(以下残クレ)が登場し、利用者が急増しているという。それもあってか、最近高級車に乗っている人が増えたように見えるが、そう思うのは私だけだろうか。

家計に占めるマイカー関連支出の割合は決して低くないし、その購入方法による実質負担額も気になるところだ。それぞれの家計事情は様々だし、概にどれが良いと決めつけられるものでもないが、せめてその違いを理解しておきたいものだ。

残クレの登場で、マイカーを購入しやすくなったとも言われているが、それを利用している人も含めて仕組みを理解している人は少ないような気がする。今月号では、「残クレ」なるものの仕組みと、そのメリット・デメリット、そして、通常のローンとの違いがどこにあるのかを改めて考えてみよう。

- ① 残クレは、車を購入する方法の一つで、デイラーや車両販売店などが「新車にお得に乗れる」という文句で力を入れているサービスだ。残クレを使えば、毎月の支払い額を減らすことが可能としており、利用者も増えている。残クレのメリットには、主に次のようなものがある。
 - ② 月々の支払額が安くなる
 - ③ 購入段階で、事前に車体価格から残価(下取り価格)が引かれているため、月々の支払額が少なくなる。
- ④ 3~5年毎に新車に乗り換えられる
- ⑤ 残クレを利用するすると、ローンの返済が終了する3年~5年の期間ごとに車の乗り換えをするか決めることができ、常に新車に乗り続けられる。
- ⑥ 下取り(買取)価格が保証されている

購入から3年経つと、価値がかなり落ちてしまったり、5年経つとほぼ価値が無くなってしまう車もあるが、残クレの場合は、あらかじめ下取り価格が設定されているため、下取り価格が下がる心配をしなくても良い。これだけ見れば、なんと夢のようにお得な:と思うが、何故そんなことが可能なのだろうか? 通常のローンで車を買う時は、車両本体価格の全額を支払う必要があるが、残クレはその中の一部だけをローンとして組むから毎月の返済が少なくなるという仕組みだ。では、一部だけのローンというのはどういう

つぶやき
がんちゃんの

生活に何かと役立つ連載コラム

生活知恵袋

せいいかつちえぶくろ

Vol. 140



こちら

保険と暮らしの相談センター

あなたの夢の実現へのお手伝い!!

相談
メニュー

- 家計の総合診断(ライフプラン)
- 保険加入・見直し(生命保険・損害保険)
- 住宅取得、住宅ローンの見直し
- 子どもの教育資金計画
- 年金・老後資金計画

相談料は
無料です!!

TLS

total life support

募集代理店

株式会社
トータルライフサポート

〒010-0916 秋田市泉北3丁目17-22

●営業時間 / 9:30~18:00(土・日・祝9:30~17:00)

●定休日 / 水曜日

TEL 018-827-7611

Fax 018-827-7610

URL <http://tls-akita.co.jp>



詳細はホームページでも
ご覧いただけます。

●紳士服のコナカ

すずきクリニック ● エネオス

新国道

山手字路

洋服の ●

青山

マクドナルド

ことかというと、例えば200万円の車を5年間乗って、5年後の下取り価格を50万円として契約すれば、150万円のローンで済むということだ。

購入した車を下取り(3・5年後)に出した際の買取保証額が「残価」で、車両価格から残価を引いた金額がローンでの返済となるため、本来の50%~70%ほどの価格で車を購入することが出来てしまうのだが…。

| クレジットで払う部分 | 残価 |
|------------|------|
| 150万円 | 50万円 |

車両本体価格 200万円

場合があるが、残価以上の金額にはならない。
④完済後に自分の車にならない

(または車両販売店)で新しい車に買換えるかの選択となる。

②残価を支払って乗り続ける

3年または5年の返済が終わっても、支払ったのは車両本体価格の一部だけであり、事前に決められた残価がまだ残っているため、当然に自分のものにはならない。その後は返却するか、買取りか、残価部分の再ローンを選択することになる。あくまで借り物ということを忘れてはならない。車検証を比較してみると、銀行等の通常のローンでは車検証の所有者は自分が名前だが、残クレの場合の所有者は「デイラー」(または車両販売店)になっている。

⑤走行距離など車の使用に制限をかけられる

残クレ購入では、自動車メーカー毎に走行距離に「1000km/月・1500km/月」などの制限があるのが殆どだ。車の使用頻度が高い場合は、月間走行距離をオーバーしてしまう可能性があるため、あまりおすすめできない。オーバーした場合は、所定の追加金を支払うことになる。

⑥事故などで損傷した場合、追加料金が発生する可能性がある

契約期間中に交通事故などで車を損傷した場合、修理しても修復歴により価値が下がることから、追加金を請求されることもあるし、全損になった場合であれば、残価分の返済もしなければならない。

このように、銀行等のマイカーローンと比較すると様々な違いが存在する。一概にどちらが良いとも言えないが、仕組みを良く理解した上で判断してほしいものだ。

● 残クレ、その他の特徴とデメリット

残クレはメリットだけだろうか…!? 最近の残クレ利用者の中には、お得な買い方とばかりに、ローン金利の違いやデメリットなどの充分な理解が出来ていないまま利用している方も少なくない。メリットだけではなく、その他の銀行等のマイカーローンとの違いを考えてみよう。

①車種によっては金利が高い

銀行等のマイカーローンの金利が2・0%程なのに対し、残クレの通常金利はディーラー(または車両販売店)によって差があるものの、およそ3・0~5・0%と比較的に高い。また、車種によって金利が異なっている事にも留意したい。残クレと言ってもローンなので適用金利などはしっかりと確認しないものだ。また、アドオン方式か元利均等かも併せて確認する必要がある。

②車のカスタマイズはできない

残クレで購入した車は返却を前提としているため、車をカスタマイズすることは出来ない。もし、カスタマイズしたとしても、返却する際には、原状復帰する必要がある。

③契約終了後の査定額によっては下取り価格で損をすることもある

人気の車種などは、3年~5年経過しても車両価格があまり落ちない場合があるため、残価よりも中古車市場での価値が高くなる

③新車に乗り換える

3・5年後の残クレの契約期間の終了後に、また新車に乗り換える。いつもピックアップの新車に乗り続ける。それだけを見れば、何とも嬉しい限りだが、併せて延々とローンも続くことを忘れてはならない。

④車両販売店で新しい車に買換える



● 残クレは、その後がPOINT

3年または5年の契約年数が終わっても、支払ったのは車両本体価格の一部だけであり、事前に決められた残価がまだ残っているのだ。“車が手軽に安く買える”夢のよう話だが、その後はどうなるのだろうか…!? 3年・5年のローンの支払期間が終わったら後は3つの方法を選択することになる。

①ディーラー(または車両販売店)に返却するその後は車をやめるか、別のディーラー

これまで、だいぶ寄り道をしてしまったが、次回は「金融リテラシー」の続きとして、具体的な金融商品との関わり方に戻って考えよう。

来月号は

手元にお金が無くて、日々の支払いを抑えたい方や、頻繁に新しい車に乗り換えたい方に對しては、残クレはかなり魅力的な仕組みだが、先にも述べたように月々の支払いを抑えられたのは、その分得をしたわけではなく先送りしたに過ぎないとということだ。後先を考えないままの残クレ利用は、所得を超えた無理な買い物になつたり、ローンスパイアルに陥る危険性をもはらんでいる。自分に合った購入方法を選択しよう。